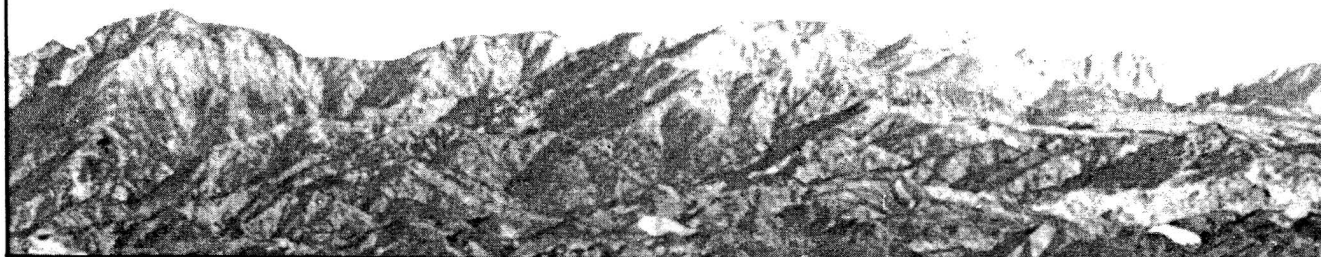


富山大学 学報



(題字 大井信一 学長)

第311号

目 次

関係法令	2	文部省永年勤続者表彰	14
学内規則	2	高等学校長協会と大学との懇談会	14
富山大学人文学部規則の一部改正	2	学術講演会の開催	14
富山大学理学部規則の一部改正	5	学内レクリエーション <ソフトボール大会>	15
学内トピックス	11	<庭球大会>	15
諸会議	12	シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(19)	15
学事	13	海外渡航者	18
中国への渡航について	13	職員消息	19
人事異動	13	主要行事	20
学内諸報	14		

関係法令

省 令

改正する人事院規則(人事院9-80-1) 9・1

- 大学院設置基準の一部を改正する省令
(文部34) 9・1
- 学位規則の一部を改正する省令(同35) 9・1
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省
令(同36) 9・1

告 示

- 大学院の入学に関し、修士の単位を有す
る者と同等以上の学力があると認められ
る者を指定する件(文部118) 9・1
- 平成2年度科学研究費補助金の計画調書
の提出期間を定める件(同125) 9・5

規 則

- 人事院規則9-80(扶養手当)の一部を

学 内 規 則

富山大学人文学部規則の一部改正

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成元年9月22日

富山大学長 大 井 信 一

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則(昭和52年5月16日制定)の
一部を次のように改正する。

第5条中

「人文学科 必修科目6単位、選択必修科目4単位を
含め計76単位以上」を

「人文学科 選択必修科目6単位を含め 計76単位以
上」に、

「語学文学科 必修科目2単位、選択必修科目4単位

を含め計76単位以上」を

「語学文学科 選択必修科目2単位を含め 計76単位
以上」に改める。

別表を次のように改める。(別添のとおり)

附 則

- 1 この規則は、平成元年10月1日から施行する。
- 2 この規則施行前の専門教育課程移行者については、
なお従前の例による。

別表

授 業 科 目 及 び 単 位 数

人文学科

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
哲 学 概 論	4	西 洋 古 典 語	4
西 洋 哲 学 史 概 説 I	6	史 学 概 論	2
西 洋 哲 学 史 概 説 II	6	考 古 学 概 論	4
哲 学 特 殊 講 義	6	考 古 学 特 殊 講 義	18
西 洋 哲 学 史 特 殊 講 義	6	考 古 学 演 習	4
哲 学 演 習	4	考 古 学 講 読	2
西 洋 哲 学 史 演 習	4	地 史 学	2
哲 学 講 読	4	考 古 学 実 習	4
西 洋 哲 学 史 講 読	4	人 文 地 理 学 概 論	4
論 理 学	2	人 文 地 理 学 特 殊 講 義	14
倫 理 学	4	人 文 地 理 学 演 習	3
美 学	2	人 文 地 理 学 講 読	4
宗 教 学	4	地 誌 学	4
心 理 学	4	人 文 地 理 学 実 習	5
比 較 思 想	4	文 化 人 類 学 概 論	4
日 本 思 想 史	2	文 化 人 類 学 特 殊 講 義	14
東 洋 思 想 史	4	文 化 人 類 学 演 習	5
日 本 史 概 説	6	文 化 人 類 学 講 読	4
日 本 史 特 殊 講 義	8	自 然 人 類 学	2
日 本 史 学 演 習	8	民 俗 学	2
古 文 書 学 演 習	4	文 化 人 類 学 実 習	3
日 本 史 史 料 講 読	2	言 語 学 概 論	2
史 学 史	2	言 語 学 特 殊 講 義	22
東 洋 史 概 説	6	言 語 学 演 習	8
東 洋 史 特 殊 講 義	10	音 声 学 I	2
東 洋 史 学 演 習	10	音 声 学 II	2
東 洋 史 史 料 講 読	2	言 語 学 実 験	2
西 洋 史 概 説	6	文 化 構 造 概 論	4
西 洋 史 特 殊 講 義	8	文 化 構 造 特 殊 講 義	12
西 洋 史 学 演 習	6	文 化 構 造 演 習	5
西 洋 史 史 料 講 読	2	文 化 構 造 講 読	4

生 活 文 化 史	4	博 物 館 実 習	3
美 術 史	2	社 会 教 育 概 論	2
法 制 史	2	教 育 原 理	2
経 済 史	2	視 聴 覚 教 育	2
思 想 史	2	計 算 機 実 習	1
博 物 館 学	4	卒 業 論 文	10

備考 他学部 of 専門教育科目（教職に関する専門科目を除く。）のうちから選択履修したのも自由選択科目として、卒業に必要な単位数に数えることができる。

語学文科学科

授 業 科 目	単位数	授 業 科 目	単位数
国 語 学 概 論	2	中 国 文 学 特 殊 講 義	6
国 語 学 特 殊 講 義	8	中 国 語 学 演 習	4
国 文 学 特 殊 講 義	8	中 国 文 学 演 習	6
国 語 学 演 習	6	中 国 語 学 講 読	4
国 文 学 演 習	6	中 国 文 学 講 読	6
国 語 学 講 読	4	中 国 文 学 史	6
国 文 学 講 読	4	中 国 語 会 話 ・ 作 文	6
国 語 史	2	中 国 思 想 史	4
国 文 学 史	8	英 語 学 特 殊 講 義	8
書 道 史	4	英 文 学 特 殊 講 義	8
朝 鮮 語 学 概 論	4	ア メ リ カ 文 学 特 殊 講 義	8
朝 鮮 語 学 特 殊 講 義	6	英 語 学 演 習	4
朝 鮮 文 学 特 殊 講 義	6	英 文 学 演 習	4
朝 鮮 語 学 演 習	4	ア メ リ カ 文 学 演 習	4
朝 鮮 文 学 演 習	4	英 語 学 講 読	6
朝 鮮 語 学 講 読	4	英 文 学 講 読	8
朝 鮮 文 学 講 読	4	ア メ リ カ 文 学 講 読	8
朝 鮮 文 学 史	6	英 語 史	2
朝 鮮 語 作 文	2	英 文 学 史	4
朝 鮮 語 会 話	6	ア メ リ カ 文 学 史	4
朝 鮮 事 情	6	英 文 法	4
朝 鮮 史	2	英 作 文	4
中 国 語 学 概 論	4	英 会 話	4
中 国 語 学 特 殊 講 義	6	ド イ ツ 語 学 特 殊 講 義	8

ドイツ文学特殊講義	8	ロシア語史	2
ドイツ語学演習	4	ロシア文学史	6
ドイツ文学演習	4	ロシア文法	2
ドイツ文法演習	4	ロシア語作文	2
ドイツ語学講読	6	ロシア語会話	4
ドイツ文学講読	6	ロシア事情	4
ドイツ語史	2	比較文学概論	8
ドイツ文学史	8	比較文学特殊講義	18
ドイツ語作文	4	比較文学演習	8
ドイツ語会話	8	比較文学講読	4
ドイツ事情	4	フランス文学講読	2
ロシア語ロシア文学特殊講義	12	フランス文学史	2
ロシア語ロシア文学演習	8	卒業論文	10
ロシア語ロシア文学講読	8		

備考 他学部の専門教育科目（教職に関する専門科目を除く。）のうちから選択履修したのもも自由選択科目として、卒業に必要な単位に数えることができる。

▶ 富山大学人文学部規則の改正理由

授業科目及び単位数を整理し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

富山大学理学部規則の一部改正

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成元年9月22日

富山大学長 大井 信一

富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和52年5月16日制定）の一部を次のように改正する。

別表を次のように改める。（別添のとおり）

附 則

- 1 この規則は、平成元年10月1日から施行する。
- 2 昭和63年度以前の専門教育課程移行者については、なお従前の例による。

別表

授 業 科 目 及 び 単 位 数

数 学 科

専攻科目	単位数		関連選択科目	単位数	自由選択科目
	必修	選択			
代 数 学 I	2		力 学 学	4	他学科及び他学部の専門教育科目（教職科目を除く。）のうちから選択するものとする。ただし、専攻科目のうちからも選択することができる。
代 数 学 演 習	1		力 学 演 習	2	
代 数 学 II		2	電 磁 気 学	4	
代 数 学 特 論 A		2	電 磁 気 学 演 習	2	
代 数 学 特 論 B		4	光 学 学	1	
幾 何 学 I	2		光 学 特 論	1	
幾 何 学 II		2	熱力学統計力学	4	
幾 何 学 I 演 習	1		熱力学統計力学演習	1	
幾 何 学 II 演 習		1	量 子 力 学	6	
幾 何 学 III		2	量 子 力 学 演 習	2	
幾 何 学 特 論		4	物 理 数 学	4	
位 相 数 学 I	2		物 理 数 学 演 習	2	
位 相 数 学 演 習	1		固 体 論 I	4	
位 相 数 学 II		2	相 対 論	2	
複素解析学 I	2		電 波 物 理 学	2	
複素解析学演習	1		原子物理学序説	2	
複素解析学 II		2	物 性 論 序 説	2	
解析学特論 A		4	地 球 物 理 学 序 説	2	
解析学特論 B		4			
解析学特論 C		4			
解析学序論 I	2		専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。		
解析学序論 I 演習	1				
解析学序論 II	2				
実関数論 I	2				
実関数論演習		1			
実関数論 II		2			
数理統計学		2			
確 率 論 I		2			
確 率 論 II		2			
数理統計学特論 A		4			
数理統計学特論 B		4			
応用解析学 I		2			
応用解析学演習		1			
応用解析学 II		2			
関数解析学 I		2			
関数解析学 II		2			
計 算 数 学 I		2			
計 算 数 学 II		2			
応用解析学特論 A (測量学2単位を含む。)		6			
応用解析学特論 B		2			
応用解析学特論 C		4			
数 学 講 究	12				
計	31	75	計	47	

卒業に必要な単位数

専攻必修31単位（数学講究12単位含む。）、専攻選択31単位、関連選択10単位、自由選択4単位、合計76単位

物理学科

専攻科目	単位数		関連選択科目	単位数	自由選択科目
	必修	選択			
熱力学統計力学	4		幾何学 I	2	他学科及び他学部 of 専門教育科目 (教職科目を除く。)のうちから選択するものとする。ただし、専攻科目のうちからも選択することができる。
熱力学統計力学演習	1		応用解析学 I	2	
固体論 I		4	応用解析学演習	1	
低温物理学		2	応用解析学 II	2	
磁性		2	関数解析学 I	2	
半導体		1	関数解析学 II	2	
物性論序説		2	計算数学 I	2	
量子力学	6		計算数学 II	2	
量子力学演習	2		応用解析学特論 B	2	
物理数学	4		基礎物理化学	2	
物理数学演習	2		基礎有機化学	2	
量子力学特論		2	化学実験	2	
相対論		2	分析化学	2	
核物理学 I		2	無機化学	2	
核物理学 II		2	天然物化学	2	
力学	4		基礎形態学	2	
力学演習	2		基礎生理学	2	
物理実験学	2		基礎細胞学	2	
連続体力学		2	環境生物学序説	2	
粒子線回折		2	生物学実験	2	
固体論 II		2	基礎地球物理学	2	
原子物理学序説		2	基礎地質学	2	
電磁気学	4		基礎地球化学	2	
電磁気学演習	2		基礎雪氷学	2	
電波物理学		4	地球科学実験	2	
電子工学概論		2			
電波天文学		1	専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。		
光学	1				
光学特論		1			
レーザー理論		2			
基礎科学実験 I	2				
基礎科学実験 II	2				
基礎科学実験 III	2				
物理学基礎実験		2			
物理学特別講義		※			
卒業論文	12				
計	52	39	計	49	

※印を付した物理学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

卒業に必要な単位数

専攻必修52単位 (卒業論文12単位含む)、専攻選択10単位、関連選択8単位、自由選択6単位、合計76単位

化学科

専攻科目	単位数		関連選択科目	単位数	自由選択科目
	必修	選択			
化学平衡論	2		応用解析学 I	2	他学科及び他学部の専門教育科目(教職科目を除く。)のうちから選択するものとする。ただし、専攻科目のうちからも選択することができる。
化学反応論	2		応用解析学特論 B	2	
物理化学実験	3		物理学基礎実験	2	
物理化学特論 I		2	原子物理学序説	2	
物理化学特論 II		2	物性論序説	2	
物理化学特論 III		2	固体論 I	4	
物理化学特別講義		2	量子力学	6	
化学工学		2	物理実験学	2	
基礎物理化学		2	電磁気学	4	
構造化学	2		光学	1	
化学結合論	2		生物学実験	2	
構造化学実験	3		基礎形態学	2	
構造化学特論 I		2	基礎生理学	2	
構造化学特論 II		2	基礎細胞学	2	
構造化学特論 III		2	環境生物学序説	2	
構造化学特別講義		2	生物物理学	2	
分析化学	2		遺伝学	2	
無機化学	2		環境生理化学	2	
分析化学実験	3		地球科学実験	2	
分析化学特論 I		2	基礎地球物理学	2	
分析化学特論 II		2	基礎地質学	2	
分析化学特論 III		2	基礎地球化学	2	
分析化学特別講義		2	基礎雪氷学	2	
無機化学特論		2	一般地質学	2	
無機化学特別講義		2	岩石学 I	2	
化学実験		2	陸水化学	2	
脂肪族化学	2		地球化学	2	
芳香族化学	2				
有機化学実験	3				
有機化学特論 I		2	専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。		
有機化学特論 II		2			
有機化学特論 III		2			
有機化学特別講義		2			
高分子化学		2			
基礎有機化学		2			
天然物化学	2				
複素環化学	2				
天然物化学実験	3				
天然物化学特論 I		2			
天然物化学特論 II		2			
天然物化学特論 III		2			
天然物化学特別講義		2			
生化学		2			
化学演習	1				
化学特別講義		※			
卒業論文	12				
計	48	56	計	61	

※印を付した化学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

卒業に必要な単位数

専攻必修48単位(卒業論文12単位含む)、専攻選択16単位、関連選択8単位、自由選択4単位、合計76単位

生物学科

専攻科目	単位数		関連選択科目	単位数	自由選択科目
	必修	選択			
形態学	2		幾何学 I	2	他学科及び他学部の専門教育科目（教職科目を除く。）のうちから選択するものとする。ただし、専攻科目のうちからも選択することができる。
系統学	2		応用解析学特論 B	2	
実験形態学		2	物性論序説	2	
種生物学	1		原子物理学序説	2	
形態学特論		2	熱力学統計力学	4	
系統学特論		2	量子力学	6	
応用生物学		2	物理実験学	2	
基礎形態学		2	物理学基礎実験	2	
形態学実験	2		基礎物理化学	2	
系統学実験	2		基礎有機化学	2	
臨海実験 I 又は野外実験 I		2	天然物化学	2	
臨海実験 II 又は野外実験 II		2	化学平衡論	2	
生物学実験		2	化学反応論	2	
生理学	6		分析化学	2	
生物化学		2	脂肪族化学	2	
生物物理化学		2	芳香族化学	2	
動物生理学特論		1	生化学	2	
植物生理学特論		1	化学実験学	2	
基礎生理学		2	古生物学	2	
生理学実験	4		地球化学	2	
細胞生物学	2		陸水化学	2	
遺伝学	2		基礎地球物理学	2	
植物発生学	2		基礎地質学	2	
情報高分子学		1	基礎地球化学	2	
微生物学		1	基礎雪氷学	2	
細胞生物学特論		2	地球科学実験	2	
遺伝学特論		1			
基礎細胞学		2	専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。		
細胞学実験	2				
遺伝学実験	2				
生態学		1			
環境生理化学	2				
放射線生物学	2				
発生学	2				
環境科学特論		1			
海洋生物学		1			
環境生物学	2				
環境生物学序説		2			
環境生物学実験	3				
発生学実験		1			
生物学特別講義		※			
卒業論文	12				
計	52	37	計	58	

※印を付した生物学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

卒業に必要な単位数

専攻必修52単位（卒業論文12単位含む）、専攻選択12単位、関連選択10単位、自由選択2単位、合計76単位

地球科学科

専攻科目	単位数		関連選択科目	単位数	自由選択科目
	必修	選択			
地殻構造論	2		幾何学 I	2	他学科及び他学部の専門教育科目(教職科目を除く。)のうちから選択するものとする。ただし、専攻科目のうちからも選択することができる。
プレートテクトニクス	2		複素解析学 I	2	
地球物理学序説		2	原子物理学序説	2	
地震学		2	物性論序説	2	
岩石磁気学		2	物理実験学	2	
地球力学		2	物理数学	2	
地球周辺物理学		1	物理数学演習	2	
地球物理学特論 I		2	力学演習	2	
地球物理学特論 II		2	粒子線回折論	2	
基礎地球物理学		2	化学平衡論	2	
地震学演習		1	無機化学	2	
岩石磁気学実験	2	1	分析化学	2	
一般地質学		2	基礎物理化学	2	
鉱物学 I		2	基礎有機化学	2	
岩石学 I		2	基礎形態学	2	
鉱床学		2	基礎生理学	2	
地殻進化学		2	基礎細胞学	2	
構造地質学		2	環境生物学序説	2	
日本列島地質誌		2	物理学基礎実験	2	
古生物学		2	化学実験	2	
地質学特論		2	生物学実験	2	
基礎地質学		2			
地質学演習		2			
地質学巡検 I		2			
地質学巡検 II		1	専攻科目の選択科目のうちからも選択することができる。		
地質調査法実習		5			
地球化学	2				
同位体地質学	2				
陸水化学		2			
地熱化学		2			
熱力学序説		2			
溶液平衡論		2			
地球化学特論 I		2			
地球化学特論 II		2			
基礎地球化学		2			
地球化学演習		1			
雪氷物理学	4				
雲物理学		2			
氷河学		2			
X線結晶学		2			
雪氷学実験		2			
応用雪氷学		2			
雪氷学特論 I		2			
雪氷学特論 II		2			
基礎雪氷学		2			
論文講読 I	2				
論文講読 II		1			
地球科学実験		2			
地球科学巡検	1				
地球物理学実験	2				
地球物理学演習	2				
地質学実験	2				
鉱物学実験	2	8			
水質分析	2				

岩石分析実験	2				
雪氷学実験	2				
雪氷学演習	2				
地球科学特別講義		※			
卒業論文	12				
計	37	89	計	48	

※印を付した地球科学特別講義の単位数は、必要に応じて定める。

卒業に必要な単位数

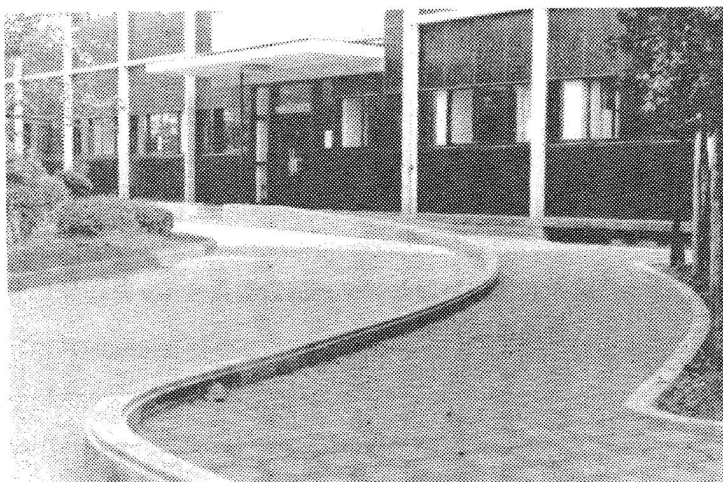
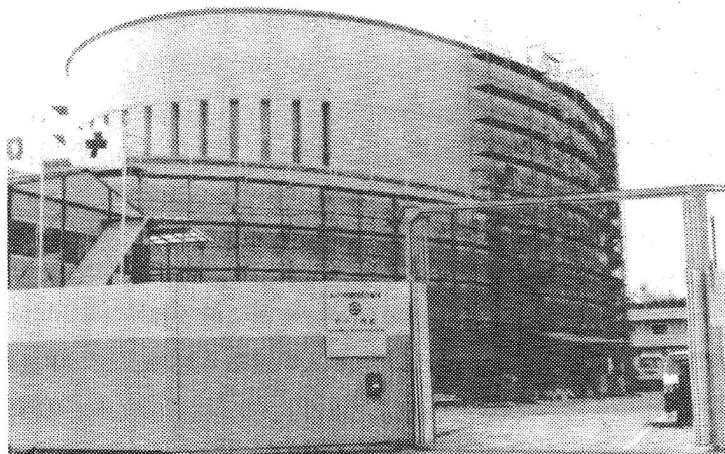
専攻必修37単位（卒業論文12単位含む）、専攻選択29単位、関連選択8単位、自由選択2単位、合計76単位

▶ 富山大学理学部規則の改正理由

授業科目及び単位数を整理し、教育内容の充実を図るため、所要事項を改める。

学内トピックス

▶ 昨年末から改築工事が行われている黒田講堂は、順調に工事が進み、現在、ユニークな卵形の造形の白を基調とした外装の一部も仕上がり、足場囲いが外されいよいよその偉容が現われて完成が待たれます。



◀ 学生部・保健管理センター玄関前道路が、学生の自転車であふれ構内交通に支障を来したことから、このたび、これが整備され歩道と車道を区分した立派な道路となった。

諸 会 議

平成元年公開講座第7回委員会（9月1日）

（議 題）

- (1) 平成元年度富山大学公開講座の受講申込状況及び対応について

- (2) 体育部会1号委員（部会長）の選出について

- (3) その他

平成元年度第3回附属図書館商議会（9月5日）

（審議事項）

- (1) 平成元年度図書購入費の選定枠について

平成元年度第8回評議会（9月22日）

（審議事項）

- (1) 平成2年度富山大学学生募集要項（推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜）について
- (2) 平成元年9月卒業者の認定について
- (3) 学生の除籍について
- (4) 富山大学学長選考規則及び実施細則の運用上の問題点等について
- (5) 富山大学人文学部規則の一部改正について
- (6) 富山大学理学部規則の一部改正について

平成元年度第3回学寮補導委員会（9月8日）

（審議事項）

- (1) 負担区分問題について（大学の自治との関連）
- (2) 温水ボイラー（燃料費）の負担割合について
- (3) その他

平成元年度第2回体育部会（9月22日）

（議 題）

- (1) 平成元年度体育系サークルリーダー研修会について
- (2) その他

平成元年度第2回大学院委員会（9月14日）

（審議事項）

- (1) 平成2年度富山大学大学院人文科学研究科（修士課程）学生募集要項について
- (2) 平成2年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）入学試験合格者の判定について
- (3) 平成2年度富山大学大学院工学研究科（修士課程）推薦入学者の選考について

平成元年度第3回事務協議会（9月25日）

（議 題）

- (1) 当面する諸問題について

平成元年度第6回入学試験管理委員会・第6回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会（9月19日）

（審議事項）

- (1) 富山大学入学者選抜健康診断判定基準について
- (2) 平成2年度富山大学学生募集要項（推薦入学、帰国子女、社会人特別選抜）（案）について
- (3) 平成3年度入学試験について

平成元年度第3回国際交流委員会（9月28日）

（議 題）

- (1) 富山県留学生等交流推進会議（仮称）について
- (2) ライオンズクラブからの奨学金支給に伴う奨学金受給者の選考について
- (3) その他

第4回情報処理センター運営委員会（9月29日）

（審議事項）

- (1) 平成元年度予算について
- (2) その他

平成元年度第4回補導協議会（9月19日）

（審議事項）

- (1) 文化部会1号委員（部会長）及び2号委員の選出について

学 事

中国への渡航について

天安門事件直後、6月7日付けで外務省から渡航自粛勧告が発出され、その後、8月18日付けで北京市以外の地域について解除されましたが、残る北京市についても9月25日付けで渡航自粛が解除されました。

しかしながら、中国（特に北京市）への渡航は、引き続き現地の情勢に充分注意され、安全確保について、細心の配慮を払われ、自己の責任と判断により行われるようお願いします。

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	平成元. 10. 1	大工原ちなみ		助教授（人文学部）	富山大学長
	〃	北林 吉弘		教 授（教育学部）	文 部 大 臣
	〃	立川 健治		助教授（教養部）	富山大学長
	平成元. 9. 11	伊藤 克江		事務補佐員（附属図書館）	〃
昇 任	平成元. 10. 1	勝山 進	横浜国立大学 経理部長	事務局長	文 部 大 臣
	〃	米岡 嶺夫	庶務課長	秋田大学 庶務部長	〃
	〃	中村 義朗	助教授（教育学部）	教 授（教育学部）	〃
	〃	淡川 典子	講 師（ 〃 ）	助教授（ 〃 ）	富山大学長
	〃	岡安 隆	助 手（弘前大学理学部）	講 師（教育学部）	〃
	〃	和合 肇	講 師（筑波大学社会工学系）	教 授（経済学部）	文 部 大 臣
	〃	茂垣 広志	〃（経済学部）	助教授（経済学部）	富山大学長
	〃	谷本 雅之	〃（ 〃 ）	〃（ 〃 ）	〃
	〃	中 純夫	〃（教養部）	〃（教養部）	〃
	〃	小松 謙	〃（ 〃 ）	〃（ 〃 ）	〃
配置換	〃	佐藤 茂夫	国立中央青年の家 庶務課長	庶務課長	文 部 大 臣
辞 職	平成元. 9. 30	泉 寛清	事務局長	辞職を承認する	〃
	〃	濱田 英子	助教授（人文学部）	〃	富山大学長
	〃	永井 和	〃（教養部）	〃	〃
	〃	岡田 薫	事務補佐員（附属図書館）	〃	〃
職務命令	平成元. 10. 1	四ツ島正喜	文部技官（施設課）	施設課電気係電気主任を命ずる	〃
	〃	三浦 伸幸	〃（ 〃 ）	施設課機械係機械主任を命ずる	〃

50年くらいの際に起きたと考えざるを得ないというこ
とで、地球の温暖化の問題が国際的にも大きく取り上

げられているときでもあり、出席者一同大きな感銘を
受けた。

学内レクリエーション 〈ソフトボール大会〉

本学レクリエーション委員会体育部会ソフトボール
班主催による平成元年度部局対抗ソフトボール大会が
本学グラウンドで実施されました。7・8・9月の昼休
みを利用して熱戦がくり広げられ、成績は次のとおり
でした。

優勝 工学部Aチーム
次勝 人文学部チーム

〈庭球大会〉

また、同レクリエーション委員会体育部会庭球班主
催による平成元年度硬式庭球大会が、去る9月9日(土)
本学硬式庭球場において実施されました。

本会は、約70名の参加者を得て、団体戦(男子)及び
個人戦(女子)により行われ、成績は次のとおりでした。

○団体戦(部局対抗)
優 勝 教養部チーム
次 勝 教育学部チーム
○個人戦
優 勝 奥田(教育)・野村(図書)ペア

シリーズ「富山大学、あの日あの頃」(19)

老生の追憶 その7

富山大学名誉教授 溝 上 茂 夫

1. 献 詞 私は先ず、その全生涯を一貫して、最
も忠実なる教師であった、そして今は天上に在る故長
谷川亀太郎先生のみ^{たま}霊に、一つの感動的な前例に倣い、
(W・ケンプ)神通川の上空を旋回する一羽の鳶に託
して、先生に相応しい、同じ学問領域の先輩たちの次
の言葉を手向ける。

「教育史上に、一等星、二等星、また三等星の如く
に、輝ける名を連ねる人々におけるよりも、名もなく
世を去って行った人々の間に、百倍も千倍も教育的資
質や神の祝福を持てる人々を見出すことができると、
主張しても、反対を受けるおそれはほとんどないであ
らう。」(G. ケルシェンシュタイナー・教育者の心)

「現代、無数の児童と父母の切に求めているものは、
特別に頭のよい教師ではなく、愛と勇気に富んだ青年
教師である。」(前掲)

「老人の憂慮は、ここで、青年の憧憬と完全に結び
つく。完成された愛の性格の下にのみ、我われは教育
者の理想の姿を求めることになるであろう。小学校の
救いはカントにもゲーテにもなく、ただペスタロッチ
の中にある。」(前掲)

「教育者の弟子たちの誰でも一度は参詣せねばなら
ない殿堂がある。ソクラテスとプラトンの教育精神の
深い叡知の下に、我われは舞いもどったようである。
理念の富と人間の貧しさを痛む感情から、この精神は
力を得る。この精神は与えながら豊かになる。」(E.
シュプランガー、生れながらの教育者)

「私は一視学官として、田舎の小学校を視察し、そ
こで無名の教師の一時間の授業を参観し、その巧まな
い授業から、ベートーベンのアダジオから受ける感動
に劣らない、法悦に浸る思いをした経験がある。」(G.

ケルシェンシュタイナー、前掲)

「教育のためには新しい発見に助けを求めず、むしろ遠祖たちの持っていた謙虚敬虔な、しかし深い家庭的英知と我らの古代のよりすぐれた教育時代の畏敬すべき遺産に頼らねばならない。」(ペスタロッチ、1782、スイス新聞)

長谷川亀太郎先生、これからこそ、そちらの世界で、思う存分、「真理の書物に読み耽って下さい。私もそのうちに、そちらの世界に参るでしょう。」

2. 生涯 ある地方新聞の死亡欄

長谷川亀太郎氏(はせがわかめたろう=芦屋大教授)

10月30日午前11時12分、心不全のため東京都中野区の立生佼成会付属佼成会病院で死去、92歳。教育心理学専攻。八尾町出身。告別式は1日午後1時から東京都練馬区上石神井3の11の6の自宅で、喪主は長男公雄(きみお)氏。

死亡欄のこの簡単な紹介だけで、92年の生涯を教育に捧げた人物と永久におさらばとは、あまりにも情ないことである。これほどの長寿は仁徳と無関係とも言えまい。「義人は死すとも語る」(詩篇)とあるが、普通は、死者は生者の追憶の言葉を通じてのみ語りかけることができる。

長谷川亀太郎先生。誕生は明治27年11月10日。牛嶽に源流し、流れながれて、神通川に合流する清き溪流に沿う坂の町越中八尾・NHK放映の名曲アルバムシリーズの中のこの八尾は、その景観も歌曲も共に、東欧や北欧のそれらに比していささかの遜色なく、何回視聴しても、飽くことを知らない魅力を保有する傑作である。毎年夏の風の盆の編笠と脚絆姿の出立ちの踊りと、民謡おわら節で全国的に有名になった、細長い家並み続き、坂の町越中八尾。これが先生が育った自然的環境である。

3. 選んだ教育の道 富山師範、つづいて広島高等師範の教育科、この科は本科と異り、全国からの少数の篤学の士の集りで、この科の歴史と業績も特筆に値する。入学条件も厳しく、小学校教員2年以上の経験と或る程度の業績に基づいて推薦されねばならなかった。

山口県出身で吉田松陰全集の著者、自ら追放を覚悟していたのに、戦後の日本の初等教育の民主化のために、GHQの教育担当の司政官、気骨のカーレー女史に、この人ならではと白羽の矢を立てられて、逆に初等教育課長として陣頭に立たされ、多年全国的な活躍で、その任務を完全に果たし、後に北九州教育大学初

代の名学長として奮闘中、病いに倒れた玖村敏雄も同科の出身。但し玖村は教育科卒業の後、私の課程と同じ徳育専攻科に進学した、勅令による文学士ではあるが。本人以外に他を語るようではあるが、人間は文学通り関連存在(Zwischenmensch)であるから、一人位いは挙げなければ、所論も抽象的な死文と化する。以上が長谷川の自然的環境に対応する人的環境の一端である。



故 長谷川亀太郎氏

4. 大学教授としての生涯 玖村に対して長谷川ご本人の方は別の道を辿り、一時文部省に在職したが、やがて米国クラーク大学(教育心理学)に留学、続いて英国エディンバラ大学大学院博士課程(心理学)に転じ、ph. D. すなわち哲学博士の学位。帰国後昭和2年全国最年少の師範学校長として沖縄を振り出しに、徳島、長崎、岡崎、宮崎、三重、最後に郷里、母校の富山師範と、連続22年間の師範教育の最後を見届け、大学となつては初代の教育学部長としてその基礎を確立。彼は師範学校史上、その校長として勤続年数の最も長い記録の保持者。預言者郷里に容れられずではなかったが、定年を待たずして退官。つづいて早稲田大学教育学主任教授。定年後、東京練馬区上石神井の自宅から芦屋まで、新幹線とは云いながら、よくも十幾年通いつづけしことか。この芦屋大学は教育学の博士課程を持ち、先生の職名は大学院教授兼理事となっている。

新幹線の座席で毛布を腰に巻いて居眠り。通りかゝりの車掌さんは顔なじみ。毛布を外してぐうぐうやっていると、車掌さんは黙ってその毛布をかけ直して通る習慣であった。

この人一度も会議中怒ったのを見たことがないというささやきを筆者は耳にした覚えがある。それはまことに感ずべきことである。しかし反面、すべての校長、学長も似たものであろうし、特筆することもあるまいが、現実には容易ではあるまい。だが怒るべき時には怒ることもできねばなるまい。それには感情を超えた信念が必要であらう。その可否を私は決し難い。

5. おもかげ 殆んど一生、管理職ばかりで、この人が学究者であると思う者はいなかった。しかし彼は学究中の学究であって、これは正に特筆に値いする。富山大学を去って以来幾十年、その死に至るまで、著述もすれば、論文も書き、大学論集、或いは紀要に執筆、殆んど一度も怠りなく、その都度富山在住の我われにまでも、郵送を怠ったこともなかった。博引傍証、ピーパー、ブーバー（何れも知名な哲学者の名）等々と驚くばかり。90歳を越えていささかも倦むことを知らない。相済まないことに、余り目を通したことがなかったが、どうやら霧のように宗教らしいヴェールに掩われ、中にまで滲透していたようである。これは体系の欠陥ではなく、逆にその優秀性である。これは広島のペスタロッチ、即ち親鸞の影響と見る。彼は教育学では福島政雄教授に師事した。心理学ではいち早くコフカの形態心理学ゲシュタルトを我が国に紹介した久保良英教授に師事した。

私が「先生、なぜ心理学をお選びなされたか」と質

ねると、その答えは「僕は自然ほど美しいものはないと思ったから、始め博物学を選んだが、その後、更に美しいものは人間の心と気付いたので、心理学に転向したよ」であった。ここで美しいとは神秘という意味であったかも知れない。先生のお説も肯綮に値するが、人間の心ほど、同時にドロドロしたものも無い。仏教で罪悪深重とあるが、フランス辺りのカトリック作家のものを読んでご覧なさい。いかにお互いに罪悪深重の身であることか。それでも、それと気付くならば、人間、望み無きに非ず。人間がもし罪悪深重でなかったら、神も仏（如来）もわざわざ来る（来迎）する必要はなかった。人間は、結局、その心において闇と光、絶望と希望、夜と晝のヤーヌスの両面性格の存在ではあるまいか。この自覚がなければ恩寵は理解できない。「罪の増すところに、恵みもいや増す」（聖パウロ）「お、幸いなる罪なる哉」（聖アウグスチヌス）

私は先生が富山大学にご在任中も、その後もご無沙汰で、心が痛む。私はたとい出身大学は異っても、教育学の領域の、前途有望な青年学徒については、比較的によく知っているので、「先生は、早稲田で、立派な後継者をお育てになった」と、お慰めの手紙を出したが待っても待っても、返事がいつものように直ぐ来なかった。長谷川亀太郎先生92歳、芦屋大学教授、現職のまゝ歿す。先生の追憶述べて尽きず。1988年3月10日



海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	教育学部	助教授	丹羽 洋介	イタリア	イタリアにおける伝統的モザイク技法の研究	元. 9. 18 } 元. 10. 5
	経済学部	"	新里 泰孝	連合王国	景気循環の基礎理論の研究	元. 9. 20 } 2. 7. 19
	理学部	教授	松浦 郁也	イタリア オランダ	第1回世界会議「選択酸化反応に対する新開発」に出席及び研究打合せ	元. 9. 15 } 元. 10. 6
	工学部	"	杉本 益規	連合王国 ドイツ連邦共和国 スペイン	第5回造粒に関する国際シンポジウムに出席及び討論, 研究資料収集	元. 9. 18 } 元. 10. 2
	"	助教授	上羽 弘	ポルトガル スペイン	「表面上の小さな分子の構造と反応性」に関する国際研究会に出席及び討論研究資料収集	元. 9. 15 } 元. 9. 27
	"	"	吉川 和男	オランダ, ドイツ 連邦共和国, オーストリア, スイス, イタリア, フランス	ゼーマンレーザーによる高精度3次元測長器に関する研究及び資料収集	元. 9. 25 } 元. 11. 24
海外研修旅行	人文学部	教授	秋山 進午	中華人民共和国	遼寧省博物館40周年記念展見学及び国際学術交流会出席	元. 9. 5 } 元. 9. 11
	理学部	"	堀越 叡	大韓民国	朝鮮半島南部及び沃川帯のテクトニクスに関する研究会に出席及び地質調査	元. 9. 22 } 元. 10. 12
	工学部	"	中谷 秀夫	ドイツ連邦共和国	第4回II-VI族化合物に関する国際会議に出席	元. 9. 16 } 元. 9. 24
	教養部	"	藤井 昭二	マレーシア, インドネシア共和国	東南アジアの海外線の進化・管理・探査討論会出席及び地質調査のため	元. 9. 2 } 元. 9. 25
	"	" 学生部長	瀧澤 弘	ドイツ連邦共和国	カロッサシンポジウム参加及び資料調査	元. 9. 30 } 元. 10. 10
	"	助教授	石川 義和	アメリカ合衆国	「強い相関のある電子系の物理に関する国際会議」で研究発表及び資料収集	元. 9. 5 } 元. 9. 18

職 員 消 息

〈新任者住所〉

事務局

事務局長 勝 山 進

庶務課長 佐 藤 茂 夫

人文学部

助 教 授 大工原 ちなみ
(アメリカ文学)

教育学部

教 授 北 林 吉 弘
(歴史学)

講 師 岡 安 隆
(代数学及び
幾何学)

経済学部

教 授 和 合 肇
(政策科学)

教養部

助 教 授 立 川 健 治
(歴史学)

事務補佐員 串 田 小百合
(教務係)

附属図書館

事務補佐員 伊 藤 克 江
(閲覧係)

〈住所変更〉

教育学部

講 師 荻 原 洋
(英語学)

経済学部

会 計 係 長 湊 馨

工学部

助 手 桑 原 道 夫
(物性デバイス工学)

《住所表示変更》

事務局・学生部

技能補佐員 高 城 政 信
(機械係)

保健係長 瀬 川 慶 之

附属中学校

副 校 長 稲 垣 実
(英語)

工 学 部

文部事務官 尾 崎 美 幸
(経理係)

主 要 行 事

本 部

- 9月1日 第7回公開講座委員会
4～10月17日 公開講座(外国で見たこと考えたこと(その2))
4日 第32回北陸五大学施設担当者協議会(於:富山大学)
5日 任用関係事務処理状況調査(文部省)
6日 行政監察(情報化施策に関する地方監察)
7日 部課長会議
7～10月26日 公開講座(情報社会のいま)
8日 第3回学寮補導委員会
富山県留学生交流推進会議に係る実務担当者の打合せ
12～13日 平成元年度長期給付実務研修会(於:KKR加賀)
14日 第2回大学院委員会
18日 部課長会議
富山消防署による消防査察
第3回学園ニュース編集委員会
18～22日 第26回東海・北陸地区国立学校等会計事務研修(於:岡崎国立共同研究機構)
19日 第6回入学試験管理委員会・第6回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会
第4回補導協議会
19～22日 東海・北陸地区国立学校等係長研修(於:名古屋大学)
21日 文部省共済組合監察
高等学校長協会と大学との懇談会

- 22日 第8回評議会
第7回部局長懇談会
第2回体育部会
25日 文部省永年勤続者表彰
永年勤続退職者との懇談会
第3回事務協議会
25～10月13日 第40回文部省会計事務特別研修(於:国立オリンピック記念青少年総合センター)
26日 国立大学協会第6常置委員会
第3回会計係長会議
26～29日 北陸地区国立学校等監督者研修(於:辰口共同研修センター)
28日 第3回国際交流委員会
第3回国際交流委員会留学生部会
28～29日 第25回41国立大学経理部長会議(於:岐阜大学)

人 文 学 部

- 9月1日 授業時間割担当者会議
学部教務委員会
2～3日 真率会レクリエーション(越後湯沢温泉)
6日 教授会
人事教授会
人文科学研究科委員会
人文学部しおり編集委員会
7日 事務連絡会
12日 学部防火管理定期査察
13日 学部入学者選抜方法検討委員会
学部教務委員会

14日 前学期授業終了
 18日 消防署立入り検査
 19日 係長会議
 20日 内線電話機等点検
 教授会
 人事教授会
 人文科学研究科委員会
 26日 センター構想小委員会
 29日 9月卒業証書授与式

6日 学部教務委員会
 学部入学方法検討委員会
 教授会
 7日 前学期授業終了
 夜間主コース運営委員会
 12日 助手室業務運営委員会
 係長会議
 13日 防火対策委員会
 14日 係長会議
 18日 富山消防署の立入検査
 係長会議
 19日 コンピュータ管理運営委員会
 20日 日本海経済研究所運営委員会
 学部図書委員会（持ち回り）
 22日 学部施設整備委員会（持ち回り）
 25日 係長会議
 27日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会

教育 学 部

9月1日 附属小学校第2学期始業式
 附属養護学校第2学期始業式
 附属幼稚園第2学期始業式
 1・2・4日 教員養成実地指導（事前指導）
 4日 教育学部教育実習運営協議会
 4～6日 平成元年度教員養成学部学生合宿研修（秋季）（於：国立立山少年自然の家）
 7日 学部補導委員会
 学部教務・補導合同委員会
 学部教務委員会
 人事教授会
 8日 学部入学者選抜方法検討委員会
 11日 学部予算委員会
 13日 学部教務・補導合同委員会
 学部教務委員会
 学部補導委員会
 教授会
 20日 人事教授会
 27～28日 全国国立大学附属学校連盟副校園長会研究会並びに日本教育大学協会附属学校連絡協議会副校園長会分科会（於：札幌市）
 29日 国立大学・学部附属学校管理運営等協議会（於：札幌市）
 29～30日 平成元年度日本教育大学協会北陸地区会保健体育科部門研究協議会（於：金沢大学）

理 学 部

9月1日 学部将来計画委員会
 2～3日 真率会レクリエーション（越後湯沢温泉）
 5日 学部入試改善委員会
 6日 学部教務委員会
 7日 事務連絡会
 11～12日 大学院理学研究科（修士課程）入学者選抜試験
 12日 学部防火管理定期査察
 13日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 14日 大学院理学研究科（修士課程）合格者発表
 前学期授業終了
 18日 消防署立入り検査
 19日 係長会議
 29日 学部将来計画委員会
 30日 学術講演会

経 済 学 部

9月1日 授業再開

工 学 部

- 9月1日 学部将来計画委員会
5日 学科主任会議
5～6日 大学院工学研究科入学試験
7日 学部図書委員会
機種選定委員会
8日 学部入学試験検討委員会
工場運営委員会
11日 学部教務委員会
13日 教授会
専任教授会
大学院工学研究科委員会
18日 富山消防署立人検査
機種選定委員会
20日 機種選定委員会

トリチウム科学センター

- 9月6日 富山行政監察事務所によるデータベースに関する行政監察
18日 富山消防署査察
27日 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律に基づく定期検査

地域共同研究センター

- 9月2日 鹿児島大学関係者視察
6日 日本学術会議学術部関係者視察
13日 経営者研究者交流会実行委員会
(於：富山技術開発財団)
22日 第3回経営者研究者交流会(於：工学部)

教 養 部

- 9月5日 教務委員会
6日 予算委員会
人事教授会
教授会
9～10日 親和会レクリエーション(弥彦, 湯田上温泉)
14日 前学期授業終了
18日 富山消防署立入検査

附 属 図 書 館

- 9月1～28日 平成元年度第1回総合目録データベース実務研修(於：学術情報センター)
5日 平成元年度第3回附属図書館商議会係長事務打合せ会
18日 消防署査察
書香(No.14)第2回編集委員会

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話 (24) 1755(代)